

【創育クリエートメールマガジン vol.8】 [理工系人材のニーズ]

2018.5.8 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第7回「私立中学の英語入試動向」はいかがでしたでしょうか。

第8回は、「理工系人材のニーズ」がテーマです。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

＝活躍が期待できる場所はどこ？－理工系人材ニーズ－＝

先日、経済産業省から『理工系人材需給状況に関する調査結果』が発表されました。この調査は1. 社会人を対象とした理工系人材の実態等調査 2. 企業を対象とした理工系人材の需給実態等調査の2つから構成されています。この中で、約1,700の企業に対して「5年後技術者が不足すると予想される分野は何か」と

いう質問をしています。回答が多かった分野は 1. 機械工学 2. 電力 3. 通信・ネットワーク 4. ハード・ソフトプログラム系でした。その理由として「他社が当該分野の採用数を増やしているため」「業界や自社の認知度が低く集まらないため」「当該分野で学んでいる学生が少ないため」「団塊の世代等の退職・離職のため」などがあげられていました。

機械工学のニーズについて経済産業省は「クルマや装置に IT を組み込む際には機械工学の知識も重要になる」と指摘しています。※1

進学・就職において、理工系を目指す生徒が専門分野を考える際、興味関心ややりたい仕事という視点から選ばれるのが最も望ましいことでしょう。一方で、「企業の採用が多そう」「花形の分野だから」という理由で専門分野の選択をするケースもあります。その場合、2つの視点から考えることが必要ではないでしょうか。

直近の 20 年あまりを見ても、科学技術の変化はダイナミックで、それに伴って花形分野もどんどん変化しています。20 年先、30 年先の社会や科学技術の変化を考えながら、キャリア選択するということも重要です。

一方、社会的な背景からいつの時代も技術者の需要が確実に存在し、かつ、団塊世代の退職などのために技術者不足に陥る可能性がある分野もあります。電力や土木工学で技術者不足が予測されているのは、まさにその例と言えるでしょう。これらの分野での若手技術者は需給バランスの関係から引く手あまたとなる可能性大です。

これらの視点は、周囲の大人たちのアドバイス、特に先生方のサポートが期待されるところかと思います。

理工系の人材ニーズについてもう1つ。先ごろ、科学技術振興機構が『女性研究者と共に創る未来』というシンポジウムを開催しました。その中で、日本の研究者に占める女性の割合がわずかに17%であること、工学系では特に少ないとの報告がありました。また、政策投資銀行の餅友佳里さんからは、女性発明者が関与した特許のほうが、男性のみが関与したものよりも経済価値が高いとの報告がありました。来たれリケジョ、工学系へ。日本の科学技術の活性化はリケジョにかかっているといっても過言ではありません。

国の経済成長、競争力を考える時、科学技術分野の人材育成は重要テーマの1つです。生徒たちが将来輝けることを考えると同時に、社会から見た人材育成の意義など、多様な視点から教育に関わる私たちができることを考えることも大切ではないでしょうか。

※1 2018年4月25日 日経新聞より

(執筆：森上教育研究所アソシエーツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については末尾の E-mail アドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋 3-24-3

T E L . 03-5472-5772

create@soiku-c.co.jp